

## 平成21年度「地方の元気再生事業」の選定について

### 【発表の要旨】

内閣官房地域活性化統合事務局の「地方の元気再生事業」に遠野市の提案事業が選定されました。

### 【発表の内容】

持続可能な地方再生の取組を抜本的に進めるため、地域住民や団体の発意を受け、地域主体の様々な取組を立ち上がり段階から包括的・総合的に支援する「地方の元気再生事業」(内閣官房地域活性化統合事務局所管)に遠野市の提案事業が選定されました。

中心市街地活性化基本計画(H21年3月27日 内閣総理大臣認定)で実施されるハード事業と、遠野物語発刊100周年記念事業をはじめ「地方の元気再生事業」で実施されるソフト事業が一体となって、遠野まちなか再生に向けた取組みが展開できます。

- 1 提案名 **遠野「語り部」1000人プロジェクト  
～「語り」でにぎわう、まちづくり～**
- 2 提案団体名 **遠野市中心市街地活性化協議会  
(会長 佐々木 弘志 遠野商工会長)**
- 3 事業費 **1,450万円 (国費)**
- 4 実施時期 **平成21年7月～平成22年1月**
- 5 提案のねらい

遠野の多様な文化は「語り」によって受け継がれてきた。

また、遠野は「民話のふるさと」として有名になり、昔話の「語り部」が注目されてきたが、もっと多様なジャンルにおいてこだわりの「語り」ができる市民が大勢存在する。

この人たちに遠野文化の「語り部」として登録していただき、お客様をもてなし「語り」でにぎわうまちづくりを実現していく。

# 遠野「語り部」1000人プロジェクト - 「語り」でにぎわう、まちづくり - 遠野市中心市街地活性化協議会(岩手県遠野市)

## 地域の現状と課題(提案の背景)

- ・ 遠野の豊かな文化は、多様なジャンルの「語り部」たちによって語り継がれてきたが、現在「民話のふるさと」遠野として、「昔話」の「語り部」だけが、脚光を浴びている。
- ・ 多様なジャンルの「語り部」こそ、遠野の大切な資源。 1000人の「語り部」により、まちなかに100年前の「馬千匹、人千人の賑はしさ」(『遠野物語』第2話より)を復活。
- ・ 中活計画を推進している既存の市民団体を活用して、「まちなか」のにぎわいを生むソフト事業を推進する。

## 目指すべき地方再生の全体

### 地方の元気再生事業

### 実施スケジュール

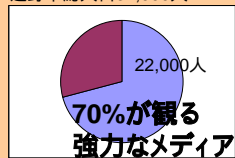
#### 取組のねらい・実施主体間の連携等

地元ケーブルTVを使って、5ジャンル(「昔話」「食」「郷土芸能」「歴史」「生業」)の「語り部」を育成する。中活計画によるハード整備が進むまちなかに活躍の場をつくる。「語り部」をまちなか賑わいの主役として活用し、交流人口の拡大を目指す。

#### 主な取組

取組 5つのジャンルの「語り部」を育成する  
取組内容  
地元ケーブルTVを活用した「語り部」放送大学

ケーブルテレビ視聴人口割合  
遠野市総人口31,000人



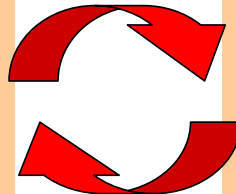
#### 見込まれる効果

- ・ 身近なメディアを活用した「語り部」(=地域を元気にする人)の養成プログラムの開発
- ・ 交流人口拡大を担う多様な「語り部」が育成される

カリキュラム・テキスト開発

- 放送授業の開講
- スクーリングの開催
- 受講修了
- 「語り部」育成

育成した  
「語り部」を活用



「語り部」の  
需要が拡大

取組 「語り部」を活かした観光商品開発

取組内容  
モニターツアー「語り部に出会う旅」の実施(1月)

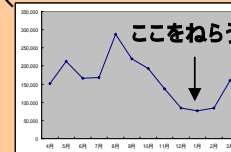
「語り部列車」に乗って遠野へ

- 語り部スポットをめぐる
- 「夜の語りBar」を体験
- 「語り部の宿」に泊まる
- 「語り部タクシー」に乗って語り部の舞台を体験

#### 見込まれる効果

- ・ 「語り部」(=人的資源)を活かした観光モデルの確立

遠野市月別観光客数



H21年8月	取組「語り部」育成	取組「語り部」を活かした観光商品開発
	カリキュラム検討 教材開発 番組制作	モニターツアーの準備・PR
10月~12月	通信講座開始 特別講座の開催	モニターツアーの実施 「語り部」列車 「語り部」タクシーの運行等
	修了・認定証の交付(認定式)	
H22年1月~		
H22年4月以降		「語り部」放送大学の継続による「語り部」のレベルアップ モニターツアーの成果を活かした観光商品の実践

### H22年度以降の展開

- ・ 地元ケーブルテレビを活用した「語り部」放送大学の継続実施により、5ジャンルの「語り部」のレベルアップを図る。
- ・ モニターツアーの成果とレベルアップした「語り部」を活かした観光商品(季節ごとのバリエーションを加えて)の通年による実践。

### 地方再生の目標像

『遠野物語』序文で柳田國男は100年前の遠野の様子を「遠野の城下はすなはち煙花の街なり。」と記している。かまどの煙が多くなびき活気のある遠野であった。大勢の人やモノが行き交い、新しい文化が生まれる、にぎわいのある「まちなか」を100年後の現代に復活させる。

